

日本年金機構の愛称及びシンボルマークについて

1. 公募の状況

公的年金制度の運営業務は、現在、国（社会保険庁）が担っているが、公的年金制度の適正な事業運営と国民の信頼を確保するため、平成22年1月以降は日本年金機構が担うこととなる。

この年金事業の運営業務を担う日本年金機構について、広く国民の皆様を知っていただくとともに、公的年金制度への理解と信頼を深め、より身近なものとしていただくため、日本年金機構にふさわしい愛称及びシンボルマークを公募した。

〔応募状況〕

○ 愛称：759点、シンボルマーク：562点

2. 選考結果等

- (1) 日本年金機構設立委員3名（うち1名は日本年金機構理事長予定者）及び外部有識者1名からなる選考委員会を開催（平成21年6月25日）し、日本年金機構の愛称及びシンボルマークを別添のとおり選考した。
- (2) 選考の結果、残念ながら愛称については最優秀作品の該当作品がなく、シンボルマークについては下記の作品を最優秀作品として選定し、今後、日本年金機構のシンボルマークとしてホームページ、パンフレット等において、公的年金制度及び日本年金機構の周知・広報に広く活用していく。

	作 品	応 募 者
愛 称	該当なし	—
シンボルマーク		酒井正中さん (兵庫県)
	<p>〔選定の理由〕 国民の皆様が見てわかりやすいマークとするため、英語をモチーフとしたものを避け、特に受給者世代を含め、幅広い世代の方々に親しみやすいものとした。作品は、年金の「年」の一文字をシンプルに表し、日本的であるとともに、文字を楕円で表現したところが、斬新、かつ現代的な感覚が感じられる。</p>	

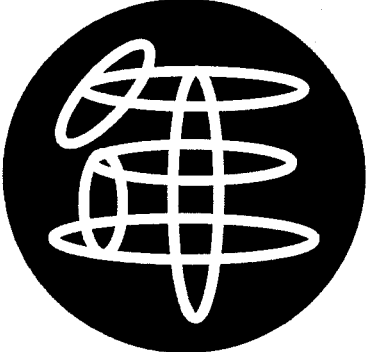
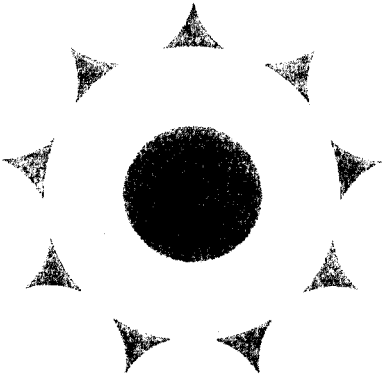
(別 添)

選考結果について

〔愛 称 (キャッチフレーズ)〕

	作 品	応 募 者
最優秀作品	該当なし	—
佳 作作品	つなGO!	山本 宏さん (愛知県)

〔シンボルマーク〕

	作 品	応 募 者
最優秀作品		酒井正中さん (兵庫県)
	〔作品の説明〕 日本国民の公的年金を運営する組織であることを、「日の丸」の上に「年金」の「年」の一文字をシンボライズすることで簡潔に表現。全ての楕円とその重なりは、新たに発足する組織の透明性をイメージしています。老若男女を問わず広く親しまれる分かりやすいシンボルマークを目指した。	
佳 作作品		浅山卓征さん (静岡県)
	〔作品の説明〕 年金は生活を守る象徴であり拠り所であるという意味から生命を守り育む「太陽」をイメージして制作。	

選考委員会委員名簿

- 青 葉 益 輝 (社)日本グラフィックデザイナー協会副会長
- 大 熊 由紀子 国際医療福祉大学大学院教授
日本年金機構設立委員会委員
- 紀 陸 孝 東京経営者協会専務理事
日本年金機構設立委員会委員
(日本年金機構の理事長となるべき者)
- 長 沼 明 埼玉県志木市長
日本年金機構設立委員会委員

※「○」は委員長

(五十音順、敬称略)